

# 平成28年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：平成28年6月18日（土）

午前9時～午後4時10分

場 所：市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 土井委員、安田委員、鴻野委員、兼平委員、西川委員、花松委員、  
佐藤委員、川村委員、齋藤（紀）委員、宮川委員、高森委員、  
木田委員  
市民協働政策課 清藤課長、堀川補佐、櫻庭主幹、對馬係長、長谷川主査、齋藤主査、  
阿保主事、神主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会

### <プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）  
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションへの参加を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、申請書類と事務局の事業説明により審査を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

（公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度  
（7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答。）
2. 審査 …20分程度  
（事業内容・金額について審議後、採点表に記入。）
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表。

（公開プレゼンテーション無）

申請団体によるプレゼンテーションを省略し、1事業につき15分程度とする。

### 【審査項目】

| 審 査 項 目 |                                 |
|---------|---------------------------------|
| 公益性     | ① 事業の効果が特定の者に限定されない             |
|         | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている |
| 必要性     | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している       |
|         | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている        |

|        |  |
|--------|--|
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             |

**【審査採点】**

| 区 分                   | 評 価 |
|-----------------------|-----|
| 高く評価できる               | 10点 |
| 「高く評価できる」と「普通」の間の評価   | 8点  |
| 普通                    | 6点  |
| 「普通」と「あまり評価できない」の間の評価 | 4点  |
| あまり評価できない             | 2点  |
| 評価できない                | 0点  |

**【決定方法】**

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

《審査内容》

- 25：親子の触れ合い「親子じゃれつき遊び」と子どもの生活習慣・体力・社会性をはぐくむ  
「コーディネーションを取り入れた運動遊び」／子育て支援サークルママーズクラブ

**【質疑応答（抜粋）】**

Q：これまで長い間行ってきた活動を、1%システムを使って行う目的や、今までと違う点を教えていただきたい。

A：子どもが減ってきていることや、遊ぶ場所が増えてきたせいもあるのかもしれないが、小さな子どものじゃれつき遊びを知らない人が増えたので、参加してくれる人数を増やしたい。また、県内に産後の母親と子どもの関係についての専門の人がいるので、その方を講師に招きたいと考えている。

Q：産後の母親に対して産後のケアボックスを行うことや、普段の活動について周知するための工夫があれば教えていただきたい。

A：チラシのほかには、講師の方や団体でつながっている看護師などに、産後の母親に情報を提供してもらえるようお願いしたい。また、保育園の子育てボードに情報をいれたり、市外の支援センターにもお願いして周知を図っていきたいと考えている。

**【主な意見】**

- ・転勤や、母子家庭等で孤立して子育てをしている人や、核家族化の進行に伴って、相談できる人が近くに居なくて、ストレスや不安を抱えながら子育てをしている人もいます

思うので、そのような人にも情報が届くよう、人目に付きやすいところにポスターを貼るなどして周知を図っていただきたい。

- ・地元の講師が広がりを進めていくと思うので、市内で保育士や幼稚園教諭を退職した方をお願いするなど、講師の選定方法も工夫していただきたい。

**【採択結果】**

合計点 74.0点 ≥60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 7.5         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 7.3         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 7.8         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 7.5         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 7.3         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 7.6         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 7.5         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 6.7         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 7.5         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 7.5         |
| 合計     |  | 74.0        |

●18：みんなが出来ちゃう「鬼ごっこ」と「スポーツ鬼ごっこ」大会／

特定非営利活動法人 ひろさきレクリエーション協会

**【質疑応答（抜粋）】**

Q：今回1%システムに申請をしたことによって、具体的に何を行いたいのか。

A：大きく2つあり、スポーツ鬼ごっこの大会と、その普及審判員の養成である。現在いる人だけで審判団を組むのは人数的に難しいので、普及審判員の養成に重点をおきたいと考えている。

Q：子どもの体力やコミュニケーション力向上に向けて、いろいろな鬼ごっこが地域でやられるようになるための工夫など、何か考えていることがあれば教えていただきたい。

A：スポーツ鬼ごっこの他にも、協力しなければできないような鬼ごっこがあるので、目的に応じて色々な鬼ごっこを、回数を重ねて実施していくことでコミュニケーション力の向上につながると考えている。

Q：事業を行う上で何を大切にしているのか。

A：協会として考えている目的は仲間作りや居場所づくりなので、まずは友達と仲良く遊

んでもらえるような工夫をしている。また、走るのが遅い子でも楽しめるような鬼ごっこを毎回必ず行っている。

### 【主な意見】

- ・子どもたちの仲間づくりや居場所づくりという本事業の趣旨は理解するが、「スポーツ鬼ごっこ」大会となることによって、競技性が高く、大会を開催するための指導者養成であると捉えられることから、日常で気軽にできる鬼ごっこを地域に根付かせていただきたい。
- ・スポーツ鬼ごっことして指導するよりも、いろいろな鬼ごっこを通して先輩や友達との付き合い方、遊びのルールを学んでいくことが大切だと思う。
- ・子どもたちが公平にスポーツを楽しむために普及審判員を育成したいという事業であれば、理解できる。

### 【採択結果】

合計点 55.8 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 11 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 6.0         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 5.5         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 5.6         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 6.4         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 5.6         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 5.6         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 5.6         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 5.5         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 5.5         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 4.5         |
| 合 計    |  | 55.8        |

- 24 : ワクワク・どきどき?!ひろレクパーク「気軽に体験!楽しい時間・楽しく健康。笑顔の自分を探しに行こう!」知力・体力・技ありの良いつどり3大イベント/  
特定非営利活動法人 ひろさきレクリエーション協会

### 【質疑応答(抜粋)】

Q: これまで協会独自で事業を実施していたということだが、今回1%システムを活用することでできることや、今までとの変更点などがあればお知らせいただきたい。

A: 協会としてはグレーのお友達も包み込んでいくことを目指しているので、複数名の専門の先生から、そのような子どもへの対応の仕方などを教えていただきたいと考えている。

Q：3つの活動を1つの事業として申請しているが、最も重点をおきたいのはどの活動なのか。

A：協会としては3つとも実施したいが、楽しさが良くわかるウォークラリーをまずはしっかりやりたいと考えている。

Q：今後も補助金を要望するということだが、将来的にはどのような事業にしたいと考えているか。

A：協会内で何かできるのかと考えた時に、対象としたのがどちらにもとれるグレーの子だったので、グレーの子もみんなと仲良くできるような事業を考えていきたいと思っている。

### 【主な意見】

- ・あれもこれもというのは無理があると思うので、ある程度絞ってやることも必要だと思う。
- ・過去にも事業を実施しているということで、実現できるくらいのノウハウやマンパワーは備わっていると思う。継続していく次のステップへ進む一歩として、1%システムへ申請したのだと考えられる。

### 【採択結果】

合計点 61.1 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 6.0         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 6.2         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 6.2         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 5.8         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 6.7         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 7.3         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 6.2         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 5.6         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 5.8         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 5.3         |
| 合計     |  | 61.1        |

## ●2：城南サマーフェスタ／城南町会

### 【質疑応答（抜粋）】

Q：町会の課題として地域コミュニティの広がりが難しいということがあると思うが、町会未加入の世帯へのアプローチや、町会スタッフの増加に向けてこのフェスタで工夫する点などがあれば教えていただきたい。

A：サマーフェスタ当日に、町会長から町会スタッフ募集のPRをする予定で、祭りとは別に、月2回発行している町会回覧版で回覧したいとも考えている。町会加入については、分譲販売会社から町会加入を薦めてもらい、入居後に役員が訪問することで、2軒加入してもらったことがあった。日頃から町会に引っ越してきた人に、挨拶がてら加入促進に出向いたりしている。

Q：参加した人を楽しませたいという発想は理解できるが、例えば地域の子どもたちに出し物をしてもらうなど何か参加型のものは考えているか。

A：今まで子ども対象の催しをしていなかったが、今年からビンゴゲームを用意しており、小・中学校にはポスターを持って行き、開催案内とする予定である。今年は、小学生による出し物はないが、町内に住んでいる学生が含まれている大学のサークルに出演をお願いしている。

### 【主な意見】

- ・祭りに来た人に、ただ見せるのではなく、保育園の子どもたちに出し物をしてもらうなど、参加型に変えてくことによって若い世代など新たな来場者も期待できると思う。過去の採択団体で実施している例もあるので、他の町会の事例も参考にしていきたい。
- ・これからの町会を維持していくためには、町民が前面に出ていく活動も必要だと思う。城南町会は大きな町会なのでまとめるのは大変だと思うが、高齢者だけでなく、若い人や子どもたちを引き込んで盛り上げていただきたい。
- ・来場した住民が「来てよかった」と思える内容であれば、もっと予算をかけても良いと思う。

### 【採択結果】

合計点 73.7 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 7.0         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 8.0         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 7.7         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 7.2         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 7.8         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 7.5         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 7.2         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 6.7         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 7.7         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 7.0         |
| 合計     |  | 73.7        |

● 1：“わ”と“な”の生き生きサークル／津軽保健生活協同組合

【質疑応答（抜粋）】

Q：公共交通機関を使わなければ会場まで行くことができない人や、会場まで行きたくても手段がない人に対しては、どのような対応をするのか。

A：今年度は一緒に参加する近所の人がいれば、乗り合いで来てもらうように案内をしている。送迎バスを出すことは運営面で難しいが、1人暮らしや高齢者に参加してもらいたいという思いで事業を企画したので、来年度以降は、今年参加した人が各地域でリーダーになって実施できるような仕組みを考えていきたいと思っている。

Q：募集人数が20人を超える希望者があった場合、何人まで対応できるのか。

A：スタッフで対応できる人数や会場の広さの関係から、30人が限度だと考えている。せっかく参加したいと思って応募してくれたので対応したい。

Q：受講した人がリーダーとなって、事業を地域に広げていくことを今後の展開として考えておられるが、リーダーの育成方法について教えていただきたい。

A：運動・講座・体力測定のパックを簡単にできるようなかたちで作っていききたいと考えている。体力測定の中の立ち上がりテストや歩行検査など、指導が必要なものもあるが、運動を動画で流せるようにしたり、講座のスライドをあらかじめ作っておいたりして、リーダーがすべてを覚えなくても、みんなで見ながら学べるようにしていきたい。

【主な意見】

- ・介護が必要になる人を増やさないためにも、事業者ではなく地域で見守っていくシステムが必要になってくると思うので、専門性のあるノウハウを持った団体が、地域に還元するのは大変意義のあることだと思う。

- ・市でも各地区に2名ずついる健康サポーターが、この事業のような専門的な指導を受けられるようになれば良いと思う。

**【採択結果】**

合計点 78.5 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 7.5         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 7.8         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 8.3         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 7.8         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 7.7         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 7.8         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 7.8         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 7.8         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 7.8         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 8.0         |
| 合 計    |  | 78.5        |

● 23 : ギネス記録も持つ！！津軽の笛が大集合！第4回津軽笛博覧会／

津軽笛地域づくり実行委員会

**【質疑応答（抜粋）】**

Q：今年で4回目の開催ということだが、これまでの津軽笛博覧会に参加した人の中で、この事業に携わるようになった人はいるのか。

A：実際に実行委員会に加入してくれた人もいる。その他にも、博覧会のワークショップで教え方を習った人が、地元のねふた団体で笛を教えているという声も聞こえている。

**【主な意見】**

- ・津軽の人だということで笛の音を聞くとざわめく。このような笛の音がどこでも聞けるようになれば素晴らしいと思う。
- ・津軽笛は弘前をPRする十分な要素をもっているので、都会に行ったときに、何か1曲でもお囃子を演奏できるような若者が増えてくれれば良いと思う。
- ・最近のねふた合同運行では、戻りや休みのお囃子を演奏しない団体がある。やはり津軽の文化として観光客等にも聞かせてあげたいので、大変だとは思いますが、子どもたちに戻りや休みのお囃子を教える手助けもしていただければと思う。



【採択結果】

合計点 77.5 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 8.0         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 8.5         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 7.8         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 7.7         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 7.4         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 8.0         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 7.8         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 7.1         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 7.7         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 7.5         |
| 合 計    |  | 77.5        |

● 11：予防救急に関する告知活動及び、出前講習会の実施／

特定非営利活動法人 津軽広域救急支援機構

【質疑応答（抜粋）】

Q：「救急」といえば、一般的な「救急」のイメージがあるが、一般的にいう「救急」と「予防救急」の大きな違いは何か。

A：救急は命を救うためのシステムだが、予防救急というのは救急車を予防しようという考え方である。今回の事業で作成するテキストには、救急車を要請すべき状態などについての内容も含めていく予定である。

Q：北里大学救命センター長を講師として招くようだが、3回の講習会のうちいつお呼びするのか。また、どのような内容で指導していただくのかお知らせいただきたい。

A：1回目の講習会でお呼びする予定。具体的な対応策等の講習は既に小規模で実施しているので、先生をお呼びした際には、予防救急を展開する上での組織づくりなどについて教えていただきたいと考えている。

Q：次年度以降のビジョンをお知らせいただきたい。

A：まずは団体として向かうべき方向をきちんと決めていく。今年度方向性を決めたいうえで、次年度以降は救急指導や転倒予防の指導者を育成し、出前講座を展開していきたいと考えている。講習会の実施も大切だが、老人ホームや町内会に出向いて出前講座を行うことで、より多くの人に予防救急の考え方に触れていただけるのではないかと考えている。

【主な意見】

- ・他の組織に先立ち、県内でも先駆けてこの事業を実施し、内容をより広めていただければありがたい。
- ・救急車に頼りきらず、自分たちで必要なものを探し求めて対応するという点はとても良いと思う。また、講習会の開催する時間も参加者の都合を考慮していて、その点についても評価したい。

【採択結果】

合計点 83.3点  $\geq$ 60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 8.2         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 8.4         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 8.9         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 8.5         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 7.8         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 8.0         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 8.5         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 8.4         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 8.2         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 8.4         |
| 合計     |  | 83.3        |

●7：高屋衆の村まつり／高屋町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：事業の予算確保の中で昨年と大きく変わった点はどこか。

A：大きな変更点は、昨年までは、町会の協議員やそれぞれの取引先に寄付をお願いしていたが、今年度からは寄付をお願いしないということ。

【主な意見】

- ・町会に住んでいるお年寄りを手分けして送迎するなど、社会福祉の面でも努力していると思う。地域住民を満足させるためには、このような祭りを継続させていくことに意義がある。
- ・昨年度の繰越金を収入に含めて補助金を申請していただきたい。

【採択結果】

合計点 66.9点  $\geq$ 60.0点 ⇒採択（収入に、昨年からの繰越金を含め補助金額を算定）

※審査委員 11 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 6.9         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 7.1         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 6.9         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 6.7         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 6.4         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 6.7         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 6.7         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 6.5         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 6.2         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 6.7         |
| 合計     |  | 66.9        |

● 15. 国際交流事業 (1) 国際交流夏祭り (2) 国際交流餅つきフェスティバル／

桔梗野町会

【質疑応答 (抜粋)】

Q：今回申請した国際交流事業は、町会事業として実施しているのか。

A：町会事業ということにはなるが、夏祭りに関しては大学、小学校、保育園も含めた実行委員会を組織し、運営している。

Q：事業の発展性についてはどのように考えているのか。

A：民間国際活動団体助成金の交付を受けていた年度は、夏祭りや餅つきのほかにも津軽凧の絵付け、リンゴ収穫体験、自社見学等を行っていたが、将来的に事業にゆとりが出てくれば、町民を巻き込んだ体験活動も復活させたいと考えている。

Q：将来的な継続という面で、参加費をとるということは考えているか。

A：餅つきに関しては、留学生とボランティアは無料だが、町会の大人は 500 円、子どもは 300 円の参加費を以前より徴収している。現在のところ参加費収入は 1 万円以下だが、参加費の徴収は今後も継続する予定である。

【主な意見】

- ・町会だけではなく、大学やその他の組織を巻き込んで実行委員会を立ち上げていることや、運営側がもてなすだけでなく、小学校の吹奏楽や保育園児による出演など参加型の内容についても評価したい。
- ・今回の申請は夏祭りと餅つきだが、次年度以降は年間を通した国際交流事業として申請すれば、さらにいろいろなことを事業に取り入れることができ、発展性があるのではな

いか。

### 【採択結果】

合計点 67.3 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 6.5         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 7.1         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 7.1         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 6.7         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 6.7         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 6.9         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 6.4         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 6.4         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 6.9         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 6.5         |
| 合 計    |  | 67.3        |

### ● 6 : 第 2 回藤代地区夏祭り／特定非営利活動法人 藤代地区活性化協議会

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q : 昨年度より予算が増額となっているが、内容面で充実させたのはどのような部分か。

A : 今年度はポスターやプログラムの作成、チラシの毎戸配布など周知面を充実させたいと考えている。また、ゲストとして呼び出す歌手に相応の謝礼を支払うこととした。

Q : 昨年の事業で見つけた課題などに対して、今回考えている対応策などがあればお知らせいただきたい。

A : 昨年、最も苦勞したのは会場づくり。今年は呼びかけをしてより多くの人にお手伝いいただき、時間短縮できるようにしていきたい。

Q : 地区の発展に向けてどのようなことをお考えなのか。

A : 最終的には住んでみたいと思ってもらえるような地域づくりを目指す。そのためにはまずは地区に興味を持ってもらうことが必要だと思うので、外から見て楽しそうな地域づくりを考えていく。

#### 【主な意見】

- ・町会単位で祭りを実施するのが困難になってきた時に、近隣町会や各種組織を巻き込みながら NPO を組織し、祭りを運営している点については面白いと思う。

- ・今回、このイベントを実施して剰余金が出た場合、来年度以降継続の際には事業の収入の一部としてきちんと計上していただきたい。

**【採択結果】**

合計点 68.5 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 7.1         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 7.1         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 7.3         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 6.9         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 6.7         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 7.3         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 6.7         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 6.7         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 6.4         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 6.4         |
| 合計     |  | 68.5        |

6月18日審査結果（26事業のうち10事業）

採択とする事業            9事業  
不採択とする事業        1事業

# 平成28年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：平成28年6月19日（日）

午前9時～午後4時15分

場 所：市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 土井委員、安田委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、兼平委員、  
西川委員、花松委員、佐藤委員、川村委員、齋藤（紀）委員、  
宮川委員、高森委員、木田委員  
市民協働政策課 清藤課長、堀川補佐、櫻庭主幹、對馬係長、長谷川主査、齋藤主査、  
阿保主事、神主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会

6月18日に引き続き審査

《審査内容》

### ●10：「グッド・Toy 2016in ひろさき」の開催／青森グッド・Toy委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：グッド・Toy 2016in ひろさきを開催するにあたって、ほかの団体とはどのように連携をしているのか。

A：会場になっている駅前子どもの広場に会場設営などで協力してもらっているほか、日本グッド・Toy委員会や自由学園などからおもちゃを無償で貸し出ししてもらっている。そのほか、関係団体には周知の協力をお願いしている。

Q：昨年の実施状況を受けて、今年の会場の作り方で工夫している点などがあれば教えてください。

A：昨年はヒロロの3階イベントスペースでおもちゃ展示やワークショップ、多世代交流室で研修会を行い、4階ホールで講演会を行ったため、縦に割れてしまった。今年は講演会を行わず、3階のみで実施するので参加者が行く場所が割れてしまうという点は解消されている。スタッフにも早めに展示するおもちゃに慣れてもらって、説明や遊ぶ時に対応できるようにしたい。

Q：グッド・Toyに選ばれるようなおもちゃの対象年齢はどのくらいなのか。

A：グッド・Toyに選ばれた中には、ゲーム性のあるおもちゃもあり、中高生や大人が十分遊べるものが含まれている。コミュニケーションが取れるおもちゃがほとんどなので、同時に同じ空間で、バリアフリーに遊んでもらいたい。

Q：おもちゃの展示や遊びのスペースで、子どもたちが遊びやすくなるような工夫は考え

ているか。

A：昨年もグッド・トイに選ばれたおもちゃ、青森に関わるおもちゃ、テーブルの上で遊ぶおもちゃ…などコーナーに分けて並べてあり、コーナーの中で自由に遊べるようにしていたが、今回はよりコーナーがわかりやすいように、展示方法を工夫したい。

### 【主な意見】

- ・駅前子どもの広場にも木製のおもちゃがたくさん置いてあり、木のぬくもりや柔らかさを伝えるコンセプトもあると思う。この場所で事業を行うことで、このような取り組みがあると周知を図ることができると思うので、周知には時間がかかると思うが頑張りたい。
- ・県内で木のおもちゃ産業が生まれたり、ウッド・スタートが広まっていくような動きが出てくればいいと思う。

### 【採択結果】

合計点 66.0 点 $\geq$ 60.0 点 ⇒採択(申請額どおり)

※審査委員 12 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 7.0         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 6.7         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 6.2         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 5.8         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 7.0         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 7.3         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 6.7         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 6.3         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 6.7         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 6.3         |
| 合計     |  | 66.0        |

### ● 16：キリバス水没危機に学ぶ地球温暖化防止プロジェクト

／特定非営利活動法人もったいないつがるの会

#### 【質疑応答 (抜粋)】

Q：講演会を開催することや市民からアンケートをとることによって、それらに参加した人たちにどのようなアクションをしてもらいたいと考えているのか教えていただきたい。

A：この事業は、各市民と行政が一緒になって地球温暖化防止に参加する契機にしたい。これまでのアンケート結果を見ると、自分以外の誰かがエコ活動をしてくれればいいと思っている人が多いように感じた。温暖化することによる被害を体験した人の話を聞いても

らうことで、特に若い世代に、温暖化についてしっかり考えてもらえる雰囲気作りをしたい。

Q：活動の中で集めたアンケートの結果をどのように活用していくのか教えていただきたい。

A：11月に行う市民にも参加を募る報告会で公表する予定である。

Q：講演会を実施する時期や、アンケートを送付する先の選び方などで、最小限の予算でより大きな効果を上げられるような工夫は考えられるか。

A：アンケートは、温暖化防止をうたっているような企業や、市内の高校・大学に送る予定である。具体的な行動に移してもらうためにも、実際に温暖化の被害を受けているキリバスの実態を知ってもらうことは効果があると考えている。

### 【主な意見】

- ・市民に地球温暖化防止について啓発するという目的は理解できるが、実施スケジュールや事業の周知方法、アンケートの取り方など、事業効果をより高められるような工夫を検討していただきたい。

### 【採択結果】

合計点 43.5 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 12 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 5.7         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 5.2         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 5.5         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 4.3         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 3.5         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 4.0         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 4.0         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 4.2         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 4.0         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 3.2         |
| 合 計    |  | 43.5        |



### 【質疑応答（抜粋）】

Q：獅子踊りを次世代に継承していくために冊子を作製することに事業費のほとんどを費やす予算組みになっているが、具体的にはどのような冊子になるのか。

A：これまで獅子踊は存続の危機を何度か乗り越えてきている。活動休止期間があると、復活するためには資料が重要になってくると思うので、活字だけでなく、DVDにも踊りの動画を入れ込んで、今まで伝わってきたものを誠実に、正確に残していきたい。

Q：後継者がおらずに活動が途絶えている獅子踊保存会もあるが、後継者を育成する事例として参考にしている団体などはあるか。

A：鶴田町では、小学校の総合学習に獅子舞を取り入れて、獅子舞の保存会のメンバーが教えに行っているところがあり、効果がある。この次世代に伝えていくシステムを、我々も学んでいく必要があると思う。

Q：鶴田町の事例を実践できるように、小学校にはどのようなアプローチをしているか。

A：学校や文化財保存課に相談したこともあるが、岩木小学校の学区内にはほかの獅子踊保存会もあり、各団体で踊り方や衣装なども異なるため、鳥井野の獅子踊だけを学校が取り入れることは難しいとのことだった。

### 【主な意見】

- ・「記念誌」という言葉が使われているが、自分たちのための記念ではなく、例えば衣装をさまざまな角度から撮影した写真を掲載するなど、次世代に残していくための教科書のような冊子にしていきたい。
- ・動画を作成するのであれば、Youtube などの動画配信サイトや団体のホームページで情報を発信して、広く伝えていくことも検討していきたい。
- ・学校の入学式や卒業式、地域の催しなどいろんな場面で獅子舞を披露することで、子どもたちに印象付けて、次世代まで残していきたい。
- ・弘前大学にも、津軽の文化を研究している学部があり、教養科目で津軽の歴史を学ぶ授業もあるので、大学にアプローチしていきたい。

### 【採択結果】

合計点 79.8 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 7.3         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 8.0         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 8.7         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 7.5         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 7.8         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 8.3         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 8.0         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 7.8         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 7.8         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 8.5         |
| 合 計    |  | 79.8        |

## ● 17：岩木山エコプロジェクト／岩木山観光協会

### 【質疑応答 (抜粋)】

Q：毎年ごみ拾いの活動を実施してきて、ごみが捨てられやすいスポットや特徴などがわかっているら教えていただきたい。

A：やぶになっているところに捨てられやすい。沢の近くに軽トラックが駐車できるようなところが、確認できただけでも7～8か所あり、これまでそのような場所のごみを拾ってきている。毎年ごみが捨てられていないかチェックするが、ごみ拾いをしたあとには捨てられていないので、意識づけにはなっていると思う。

Q：ほかにクリーン活動をしている山の先進事例があれば教えていただきたい。

A：先進的な事例はないが、どこもみんな頑張っているという状況である。

Q：これまで市の関係課や、関係団体にはどのようなアプローチをしてきたのか。

A：三年ほど前に岩木山周辺の施設や、活動団体で話し合う場を設けて、岩木山の環境保全のためにスタートしている。市や県の関係課とも話はしているが、ごみの処理費用を予算化するのは難しいということである。

### 【主な意見】

- ・関係課が予算化できないことは事前質問への回答からもわかるし、人手は出すからごみを廃棄する費用だけ補助してほしいという事業なので、審査委員会としては、とにかく頑張っていて続けていただきたいというしかない。
- ・弘前だけでなくほかの自治体でも抱えているような問題であり、さまざまな取り組みがされていると思うので、それらを調べて参考にするなどしていかないといけないと思う。
- ・ボランティアで集めたごみを焼却所に持って行くときに申請書を提出することで、処分

料が無料になる。不法投棄のごみとなると意味合いも変わると思うが、担当課に処分が無償となるごみの解釈に幅をもたせてもらえることが一番現実的だと思う。

**【採択結果】**

合計点 86.3 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択

※審査委員 12 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 8.7         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 8.7         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 9.2         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 8.7         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 8.7         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 8.7         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 8.2         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 8.2         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 8.7         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 8.8         |
| 合計     |  | 86.3        |

● 26 : 岩木山 YOGA フェスティバル／岩木山 YOGA 実行委員会

**【質疑応答 (抜粋)】**

Q : 参加予定者数を 500 人とした根拠を教えてください。

A : ヨガのレッスンへの参加者はもちろん、身体にやさしい食べ物や、岩木山を守ろうと活動している団体のブースを用意して、誰でも気軽に足を運んでもらいたいので 500 人と設定した。また、近年市内でもヨガ人口が増えており、ヨガのインストラクターやスポーツ関係者と連携して集客していきたい。

Q : 県内ではヨガをする男性が少ないけれども、参加して欲しいとのことだが、男性に参加してもらうために、どのようなアプローチを考えているか教えてください。

A : 県外だと日常の中にヨガを取り入れて健康づくりをしている男性が増えてきているので、まだ男性のヨガ人口が少ない県内でも、男性がヨガを始めるきっかけになるように、ポスターや SNS など告知するほか、周りの男性から口コミで広げていく努力をしたいと思う。

Q : 参加人数が 500 人に対して、既存のトイレの数だけで問題ないか。

A : 「つがるもり」などの大きなイベントでも既存のもので足りているので問題ないと考えている。また、ヨガのレッスン時間をずらしてスケジュールを立てるなどして、大きな混

雑にならないように対策をしている。

**【主な意見】**

- ・「ヨガ」を切り口にするよりも、岩木山の自然やスローライフ、健康といった、より広い概念の中にヨガもありますよと周知したほうが、人が集まりやすいのではないかと感じた。
- ・昨年の1%システム採択団体の津軽美人プロジェクトがりんご公園でヨガをしたり、弘前公園のダンスイベントで朝ヨガを取り入れるような動きがある。また、公民館のヨガグループの参加者をみると、ヨガ人口は相当増えてきていると考えられ、ニーズはあるのだと思う。
- ・八戸市の種差海岸で朝ヨガのイベントが行われているのをみると非常に壮観で、開催する場所選びも重要だと感じた。弘前市で考えると、岩木山で開催するというのはよくわかる。
- ・男性のヨガ人口が少ないということなので、男性に参加してもらうためのアイデアを加えていただきたい。

**【採択結果】**

合計点 62.5 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択 (申請額どおり)

※審査委員 12 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 6.5         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 6.7         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 6.3         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 6.0         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 6.0         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 6.3         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 6.5         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 6.3         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 6.0         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 5.8         |
| 合計     |  | 62.5        |

● 5 : 大沢サマーフェスティバル／大沢サマーフェスティバル実行委員会

**【質疑応答 (抜粋)】**

Q : 雨天時には、防災訓練や祭りをどのように行うのか教えていただきたい。

A : 祭りは、メインステージをウイング付きのトラックにしており、観客はテントの中で見ていることができるし、公民館も隣接してあるので対応できる。防災訓練は雨が降って

もやらないと意味がないので、天気に関係なく実施する。

Q：防災訓練と祭りの比重をどのくらいを考えているのか。

A：できればみんな防災訓練から参加して欲しいと思っているが、まだ祭りに参加する人の方が多い。これから防災訓練に参加してくれる人を増やすために、炊き出しなど参加して面白いものを作っていったり、関係団体などにも呼びかけていきたい。

【主な意見】

- ・自主防災訓練だけでも、祭りだけでもなかなか人が集まらないので、あわせて開催してたくさん地域住民が集まっているときに訓練をすることは、非常に意義があると思う。大沢でこのように訓練をしているということが周知されて、見に来るような町会が増えるといいなと思う。
- ・企画の段階からメンバーに女性を入れて、炊き出しのことを責任を持って企画してもらうなどして、スムーズに実施していただきたい。
- ・まずは自分たちができる範囲でチャレンジして、自分たちの身に付けていくことが大事だと思うし、ほかの地域でなかなか実践できなそうなことを若いメンバーが率先して動いていることが素晴らしいと思う。

【採択結果】

合計点 79.3 点  $\geq$  60.0 点

※審査委員 11 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 7.6         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 8.4         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 8.2         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 8.0         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 8.0         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 8.2         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 8.0         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 7.5         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 7.6         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 7.8         |
| 合計     |  | 79.3        |

● 14：まちライブラリー@弘前大学 / 青森 de かだるシス

【質疑応答 (抜粋)】

Q：みんなが本を持ち寄って、本について話し合ったり、弘前の持っている課題について

語り合ったりする場ということだが、その場で共通の話題を生み出すことは容易にできるものなのか。

A：例えば持ち寄る本のテーマの大枠を設定して紹介しあうことで、普通に生活していると言葉を交わす機会が無かった人と本を通じてネットワークを作ることができる。課題解決という点では、特定の本をあらかじめ読んできてもらい、レジュメを作って論点を決めていくようなゼミ形式でもできるし、自身でテーマを持ってきて、これについて話し合おうというやり方もできると思う。

Q：話し合いの場が出てきたテーマをどのように解決し、どのようなアクションを起こしていくのか。

A：例えば参加した人から、交流する場が少ないから定期的集まる場を設けたいという提案があった場合、今度はまちライブラリーの座談会を離れて話し合いをしたり、グループが作られていくことになる。まちライブラリーは、そのようなきっかけをサポートするプラットフォームとしての機能を持つ場である。

Q：今回はコラボ弘大の中で定期的に場を提供するという企画だが、要望があった場合に大学の外で開催することは考えられるか。

A：自分たちの強みは、固定した場があることだと考えていたので外でというのは想定していなかったが、提案があった場合は、可能な範囲で対応していきたい。活動が広がるとネットワークも広がっていくと思うので、広がったネットワークをほかの団体にも使ってもらいたい。

Q：学生以外の地域の人を集めるためのアプローチの仕方、特に考えていることがあれば教えていただきたい。

A：まずはホームページやチラシで周知する。重要なのは、青森県にあるまちライブラリーと連携することだと考えており、人と人がコミュニケーションを取れる場で周知することで、口コミで伝えてもらうことで足を運んでもらえるのではないかと思う。

#### 【主な意見】

- ・新たなコミュニティを生むために、人が集まる場を創出することや、地域の課題解決に向けたプラットフォームとしての機能の必要性は理解するが、本事業では、学生以外の地域住民の参加が見込めない部分も多いことから、まずは地域住民が参加したくなるような開かれたライブラリーとする工夫や周知方法を検討していただきたい。
- ・将来、まちなかを歩いていてふらっと立ち寄れるような、空き店舗や既存のカフェなどの場所を使ってこの事業を展開していければ、活動が広がると思う。

#### 【採択結果】

合計点 59.5 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 11 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 6.5         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 6.5         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 6.2         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 5.8         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 6.0         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 5.6         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 5.6         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 5.8         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 5.8         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 5.5         |
| 合 計    |  | 59.5        |

● 20：第3回「住み慣れた地域で最期まで」を支え合う街づくり講演会

YES I Can～“やりたいこと”を“できること”に～/ひろさきナラティブ.net

【質疑応答(抜粋)】

Q：これまで活動してきて、事業に協力してくれそうな団体や、活動することでつながることができたネットワークなどがあれば教えていただきたい。

A：今回1%システムに申請している弘前暮らしの保健室の活動は、我々がこのような取り組みをしたいと思っていたことなので、協力をしていきたいと思っている。そのほかの市内の団体とはまだつながりが無いが、十和田や青森の団体とは活動を通してつながりが出来ている。

Q：参加者を募るために工夫していることがあれば教えていただきたい。

A：前回参加した人の中で連絡先を書いてくださった人には、個別に通知する。前回の反省点として、チラシから講演内容がわかりづらかったので、今回はもう少し内容がわかるようなチラシにして、できるだけすべての民生委員にわたるように周知したいと考えている。

Q：今後の展開として、地域の人と協働してサロンを企画していきたいという部分があるが、どのようなサロンを展開したいと考えているか教えていただきたい。

A：来年度以降も、地域包括ケアシステムをテーマとした講演会を実施していくことを考えているが、講演会形式がベストだとは考えておらず、参加した人たちがみんなでお話合えるような形に発展させたい。まだその段階ではないが、今後小さい地域の中のサロンのような場所にどんどん入っていき、そのように活動できたらいいなと考えている。

### 【主な意見】

- ・今後事業を発展させていくためにも、団体のメンバーが地域で行っている小規模な勉強会などに出向いて行って、少しずつ伝えていけるようになっていければいいと思う。そうなるために、めったに招くことができない講師による講演会を基にするのはいいことだと思う。
- ・専門の人が見ると講演の内容がわかるタイトルなのだと思うが、一般の人にとっては専門的すぎて気が引けると感じるかもしれない。もう少し、一般の人にとってとっつきやすいタイトルが付けられれば、参加者も増えると思う。
- ・このような福祉の事業は、現場を知る人でないといけないことだし、団体にはさまざまな職種の人がいるようなので、それぞれスキルアップしながら頑張っていたきたい。

### 【採択結果】

合計点 74.7 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 7.5         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 7.6         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 8.0         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 7.6         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 7.5         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 7.5         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 7.5         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 7.5         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 7.3         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 6.9         |
| 合計     |  | 74.7        |

### ● 8 : ヘルシーエイジング／ヘルシーエイジング

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q : 活動を始めてからどのくらいになるのか。

A : このような活動は今回が初めてだが、今までは主に体操だけの活動をしていた。高齢者と関わることで、出かけるのがおっくうに思っている人に出かけてもらうことをコンセプトに、体操以外のミニ講座を取り入れた、人と人がつながれる場を作って豊かな老後を過ごしてもらいたいと考えるようになり、事業を申請した。

Q : 事業の期間を3期に分けている1期ごとにチラシ1,000枚を作るということだが、設置場所などチラシの活用方法を教えていただきたい。



A：会場がヒロロの健康ホールなので、ヒロロの近くの町会の回覧板にチラシを入れてもらう予定である。そのほか、公共施設やスーパーなどにチラシを設置してもらいたいと考えている。

Q：市の各地区に配置されている健康サポーターに対して、体操の話をするなどのアクションをする予定はあるのか。

A：1期目が始まるまで時間があまりないこともあり、まずは、会場から近い町会からアクションを起こしていこうと考えている。2期以降はより広い地域に働きかけていきたい。

### 【主な意見】

- ・子育て支援と同じく、健康増進・短命県返上に関わる事業はさまざまな種類があり、参加する側が自分に合ったものに参加するのがいいと思うので、新たな事業が出来て選択肢が増えることは非常に良いと思う。
- ・地域で活動している健康サポーターにも積極的にアクションを起こして、刺激を与えていただきたい。
- ・男性も参加しやすいような工夫も考えていただきたい。
- ・参加者自らが講座主宰の役割を担うきっかけにすることを目的としている点が素晴らしいと思うし、ぜひ実現してほしい。担い手を増やして、事業を地域に広げていただきたい。

### 【採択結果】

合計点 77.0 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点（齋藤（紀）委員は審査から外れる）

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 7.4         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 8.4         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 8.2         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 7.6         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 7.8         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 7.6         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる | 7.4         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 8.0         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 7.4         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 7.2         |
| 合 計    |  | 77.0        |

●21：「あのね、知ってる？ここにもフランス」プロジェクト／弘前グローバル・アクション  
【質疑応答（抜粋）】

Q：今後も弘前の中の「フランス」をテーマに事業を実施していくのか。

A：今回の構成員はフランス語履修者で、フランスが好きな人が集まっている。例えばフランス料理という敷居が高いイメージがあるが、庶民的な視点でフランスに触れてもらいたいと思っており、この活動が、ほかの国を好きな人にも派生して同じような形のイベントが出来れば良いと考えている。

Q：リーフレットの対象を市民から観光客に広げることは考えられるか。

A：今のリーフレット作製の目的が、隠れたフランスを紹介することなので、観光客にとっては少し入り込んだ話になっているかもしれないが、お店を紹介しているので、お土産の参考にしていただくとありがたい。

Q：イベントにはフランスの人が主催者側として参加する予定はあるか。

A：フランスから弘前大学への留学生が今年は5人いる。来日して間もないが、なんとかコンタクトを取って留学生を巻き込んでいきたいと思っている。去年のアンケートによると、市民と留学生が交流する機会があったようで、市民と留学生の関わりを少しでも作ることができたと思う。

【主な意見】

- ・学生が勉強した得意分野を街に持って出てきて、市民に伝えるような企画は、非常に元気がもらえるし、楽しい事業である。
- ・観光客にもフランスの香りがする弘前をPRしていただきたい。
- ・大学生が土手町で事業を実施すると、多くの大学生が参加するので、それだけで街にとっては効果がある。また、土手町には洋菓子店やカフェが多く、フランスに通じるお店がかなりあるので、団体とお店がつながって相乗効果があれば非常に良いことだと思う。

【採択結果】

合計点 71.8点  $\geq$  60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 7.5         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 7.5         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 6.4         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 6.5         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 7.8         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 7.8         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 7.1         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 6.7         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 7.5         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 7.1         |
| 合 計    |  | 71.8        |

6月19日審査結果 (26事業のうち10事業)

採択とする事業 8事業

不採択とする事業 2事業

# 平成28年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（3日目）

日 時：平成28年6月20日（月）

午後2時～午後6時30分

場 所：市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 清藤委員長、土井委員、安田委員、鴻野委員、兼平委員、西川委員、  
花松委員、佐藤委員、川村委員、齋藤（紀）委員、前田委員、  
宮川委員、木田委員  
市民協働政策課 清藤課長、堀川補佐、櫻庭主幹、對馬係長、長谷川主査、齋藤主査、  
阿保主事、神主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会

6月18日・19日に引き続き審査

### 《審査内容》

#### ●4：弘前暮らしの保健室／弘前暮らしの保健室

##### 【質疑応答（抜粋）】

Q：会場となる清水交流センターは、交通の面であまり便利な場所とは言えないので、まちなかでの開設を希望されているようだが、開設場所の目途はついているか。

A：土手町近辺で、無料に近い使用料で貸してくれるような場所があれば、いちばんいいと思っている。しばらくは、地域の交流センターのような所を借りて、継続していきたい。

Q：市の高齢者施策と方向性が同じようだが、市の関係機関と連携しながらこの事業を進めていく予定はあるか。

A：まだ、実際は動いていないが、いろいろな協力体制など、市の関係機関に相談しながら、市の施策に捉われることなく、自由な発想で続けていきたいと思っている。その中で、一緒に活動できそうなことがあれば、市以外の団体等とも連携していきたい。

Q：まだ始まったばかりの事業だが、市の課題でもあるため、将来的にこんな形にしたいというビジョンがあれば教えていただきたい。

A：できるのであれば常設にして、暮らしの保健室に来た人に、手芸や園芸などのそれぞれ得意分野を受け持ってもらいながら、ボランティア活動として続けていきたいと思っている。

##### 【主な意見】

- ・弘前にはサロンの役割を持つ場所がなく、各地域への拠点づくりが必要になってくる中で、清水交流センターから他の交流センターへと、拠点づくりの方向に持って行くこと

ができるような可能性を持っていると思う。

- ・行政で予算化されていないことから、ボランティアの方達をつなぐことでより効果的なこともできるため、1%システムを活用しながら、広く市民に浸透するまで伝えていただきたい。
- ・現在活動している人数で、できる範囲で続けていくことが重要だと思うので、今のスタンスのままで活動し、現場同士でつながることで理解者を増やしていただきたい。

#### 【採択結果】

合計点 80.3 点 ≥ 60.0 点 ⇒ 採択(申請額どおり)

※審査委員 13 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 7.8         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 8.2         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 8.6         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 7.8         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 7.5         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 7.8         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 8.0         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 7.8         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 8.0         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 8.6         |
| 合計     |  | 80.3        |

#### ● 9：初めての避難訓練／栄町町会

##### 【質疑応答（抜粋）】

Q：防災組織を立ち上げたことで、チラシや防災マニュアルを配布するなど、町会住民の防災意識を高めるための工夫などがあれば教えていただきたい。

A：防災組織を立ち上げる際に、規約や組織図を配付している。昨年度、防災組織を立ち上げたばかりなので、訓練については、まず町会役員が主体的に、実際にどういった動きをすればいいかなどを確認するところからやってみる計画を立てている。

Q：実際にどういう流れでどう動くかなど、避難訓練自体の組み立てについて、講師や専門家のアドバイスは想定していないのか。

A：県の防災士会や消防の方にも相談しながら、実施したいと考えている。また、避難訓練を行っている町会が他にもあるので、そういったところからの情報を収集していく。

Q：非常用の食品は、避難訓練の中で使用するのか。

A：訓練に参加した人に、避難所ではこういった食品を支給することを伝え、何日か暮らすことになるという意識付けをする。

### 【主な意見】

- ・自分達だけで実施すると、問題点に気づかないこともあるので、専門的知識のある第三者のアドバイスを受けることで、さらに発展できると思う。
- ・避難訓練の結果を、役員レベルではなく、避難場所や避難方法など、町会民にわかりやすい物を作成して配布していただきたい。
- ・自分達でもやってみよう動き出す町会を増やすような、先導的な役割を果たしてもらいたいと思う。

### 【採択結果】

合計点 65.5 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 6.6         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 7.5         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 7.4         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 6.6         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 5.8         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 6.5         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 6.6         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 7.1         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 5.4         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 6.0         |
| 合計     |  | 65.5        |

### ● 12：石坂洋次郎没後 30 年「甦る 戦後の大ベストセラー作家 石坂洋次郎」／

弘前ペンクラブ

### 【質疑応答（抜粋）】

Q：幅広い人たちが興味を持つようなイベントにするアイデアを持っているか。また、1 回のイベントで終わるのではなく、横のコミュニティを作っていくような考えはあるか。

A：昨年も若者を集めたいと思い、チラシを持参して高校と大学を訪問したが、予想に反して参加が少なかった。今年は、文学に興味を持っていない人の目につくようなキャッチコピーを載せたポスターを作成する。また、若者も対象にした、読書感想文コンクールな

ど、この事業の後も、どのように広げていくかについてすでに話し合いを始めている。

Q：高校生や大学生は、ツイッターやラインで情報を得ている場合が多いが、そういった情報発信は考えているか。

A：弘前ペンクラブで指定管理している「太宰治学びの家」で、フェイスブックを開設している。そういったツールを最大限に活用し、発信していきたい。

Q：映画に興味を持っている、ある年代以上の人たちをターゲットにしているのか、それとも、もっと若者に来てもらいたいと思っているのか。

A：弘前ペンクラブの使命として、郷土出身の作家や文学を、次の世代に伝え残していくことが重要なので、たくさんの若者に参加して欲しいと考えている。

### 【主な意見】

- ・今の若者は、石坂洋次郎が弘前出身であることを知らないので、チラシやポスターに弘前出身であることを明記することで、若者の気を引きながら、郷土の作家は郷土の財産であることを大事にする事業として継続していただきたい。
- ・普遍的なエッセンスのようなものを、みんなで共有できるような形で事業を表現できれば、もっと広がりが見られると思う。
- ・イベントのタイトルが固いと、若者はなかなか興味を示さないなので、アニメ風のチラシやポスターにしてみるなど、若者が興味を持つような周知方法を検討していただきたい。

### 【採択結果】

合計点 69.7 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 6.9         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 6.9         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 6.5         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 6.5         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 7.7         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 7.7         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 6.6         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 6.8         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 7.1         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 7.1         |
| 合 計    |  | 69.7        |

●3：おしごと体験広場 キッズハローワーク／

おしごと体験広場 キッズハローワーク実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：おしごと体験の種類の中で、津軽塗やこぎん刺しなど、地域にはこのような文化があって、津軽ならではの仕事があることを知らせるような取組みはあるか。

A：去年は、りんご農家の出店があった。ここにしか無い仕事には、どのようなものがあるかということ、子どもたちは知らないと思うので、津軽のもの作りや産業など、そういうことも伝えながら、東京で出来る事、青森でも出来る事など、様々な世界が広がっていると感じ取れるような内容に深めていきたい。

Q：去年は、自主事業として実施しているが、今回、1%システムを活用することによる効果や、昨年との違いは何か。

A：去年は、当初の予定よりも参加者が多く、入場制限をしたりしてご迷惑をおかけしたため、今年は規模を拡大し、安全面も考慮して対応する。また、社会教育の中で、こういった動きをどう位置付けしていくのかということ、1%システムを活用しながら、行政やいろんな方面に働きかけていきたいと考えている。

Q：キャリア教育の一環という狙いで実施するのか。

A：ただ遊んでもらうのではなく、いろんなお仕事を体験・体感することで、将来なりたい自分をイメージするエッセンスとして、感じてもらえるように工夫している。

【主な意見】

- ・単に与えられたものを体験するのではなく、子どもたちがやりたいことを選択して体験するというので、すごく楽しめると思う。その中に、キャリア教育の結果を求めるだけではなく、まずは興味を持ってもらい、働くということは何なのかということを入力させていくということもあると思う。
- ・子どもは、おしごとを体験することだけでも楽しいと思うが、社会科見学というか、もう少しリアルな社会と接続されるような工夫があると、もっとおもしろいと思う。
- ・体験できる日が1日だけだと、少し物足りない気がするので、可能であれば、いつでも体験できようになったり、中学生版おしごと体験が出来ていけばいいと思う。

【採択結果】

合計点 77.7 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択

※審査委員 13 名で審査採点



| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 8.2         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 7.7         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 7.5         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 7.2         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 7.7         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 7.7         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 8.2         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 8.0         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 7.5         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 8.0         |
| 合 計    |  | 77.7        |

● 2 2 : 小学校体育支援事業～運動大好きプロジェクト～ /

特定非営利活動法人 スポネット弘前

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 教育委員会と協議するなど、教育委員会の意向を確かめたうえで、この事業を応募したのか。

A : 前年度に、文部科学省の委託事業として実施しているので、事業内容に関しては教育委員会で知っている。今回は、1%システムの採択結果が出ていないので、教育委員会の意向は確認していないため、正式にやっていいとの回答はまだもらっていない。

Q : 学校教育に関わることになるため、まちづくり1%システム審査委員会において、実施して良いのか悪いのかを判断できないと思うが、そのことについてどう考えているか。

A : この事業は、学校側からの要望を受け入れる形で、要望に応じてこちらでコーディネートしながら、先生方と打ち合わせをし実施するものなので、1%システムで採択された時点で、正式に許可を得ようと考えていた。

【主な意見】

- ・事業の内容は非常にいいと思うが、小学校の授業は教育委員会が管理しているため、教育委員会の了承がない状態で、万が一事故などが起きた場合の責任の所在が不明確になり、スポネットだけでは対応ができない可能性があると思う。
- ・この活動は、既存の学校体育への問題を投げかけていて、NPOの社会的使命として、非常に重要なことをやっていると思う。事故の対応のこともあり、教育委員会の了承を得るなど、必要な手続きもあると思うが、審査を行って採択となった場合に、教育委員会の了承を得ることを条件とした採択という方法もあると思う。

### 【採択結果】

※審査の場において、今回の事業を実施するにあたり、学校の授業に関わる内容であることから、市の教育委員会の了承を得たうえで実施すべきとの審査委員会の意見を受け、団体が申請を取り下げたもの。教育委員会に対し、事業説明及び事業実施の了承を得たうえで、3次募集時期に応募する予定。

### ● 13 : 「第3回弘前城Q&R」開催事業／弘前城Q&R実行委員会

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q：今年は小学生版も実施するようだが、大人向けより簡単なクイズを出題するのか。

A：なぞなぞを取り入れるなど、小学生向けのクイズを考えている。

Q：イベント終了後、ボランティアスタッフを交えた意見交換の場を設けるなど、主要メンバーに引き入れるような仕掛けを考えているか。

A：イベント参加者やボランティアスタッフには、アンケートを実施する。その内容を集計して、みんなで見ることある。

#### 【主な意見】

- ・このイベントの実施だけではなく、若者のボランティアを増やし、スキルアップさせながら、新たなイベントの企画者を創出することも目指している事業となっているので、ぜひ実現していただきたい。
- ・出題されるクイズが、弘前の歴史や弘前にまつわるクイズになっているので、例えば、弘前観光コンベンション協会で開催している津軽ひろさき検定と連携するなど、学校では教わらないようなことを学べるようなこともできればいいと思う。
- ・ボランティアスタッフが主要メンバーになっていくような、つながりを作るためのプロセスがもう一段階あるとおもしろいと思う。

#### 【採択結果】

合計点 73.5 点  $\geq$  60.0 点

※審査委員 13 名で審査採点

| 審査項目   |  | 評価<br>(平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性    | ① 事業の効果が特定の者に限定されない                    | 7.4         |
|        | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている        | 7.7         |
| 必要性    | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している              | 7.1         |
|        | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている               | 6.9         |
| 実現性    | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である          | 7.7         |
|        | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている              | 7.7         |
| 将来性    | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 7.4         |
|        | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる                     | 7.4         |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている         | 7.1         |
|        | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる             | 7.2         |
| 合 計    |  | 73.5        |

6月20日審査結果 (26事業のうち6事業)

|          |     |
|----------|-----|
| 採択とする事業  | 5事業 |
| 不採択とする事業 | 0事業 |
| 申請取下げ    | 1事業 |

2次募集事業の審査結果 (26事業) 6月18日～20日審査合計

|          |      |
|----------|------|
| 採択とする事業  | 22事業 |
| 不採択とする事業 | 3事業  |
| 申請取下げ    | 1事業  |